

インド India 日本 Japan 原子力 Nuclear Power

今回はインドです。
まずインドで押さえておくべき点は
・核兵器保有国である
・インドの原子力発電所は6ヶ所。原子炉の数は20。6つの炉を新設中（1ヶ所増）
ということでしょうか。 (参考資料①)

それではインドと日本が関係する原子力関係の経緯をまとめてみます

1974年5月

インド

第1回目核実験

IAEA保障措置下にあるカナダ製研究用原子炉から得た使用済み燃料を再処理して得たプルトニウムを使用 (参考資料②)

1978年

原子力供給国グループ (NSG : Nuclear Suppliers Group) 設立

1974年のインド核実験を契機に設立
「NSGガイドライン」と呼ばれる原子力関連資機材・技術の輸出国が守るべき指針に基づいて輸出管理が実施される (参考資料②)
2014年8月現在で加盟国は48ヶ国 (参考資料③)

1998年5月

インド

第2回目核実験

2006年12月

日本・インド

安倍政権

シン首相来日

「日印戦略的グローバル・パートナーシップ」に向けた共同声明 (参考資料④)

両国は、インドに関する国際的な民生用原子力協力の枠組みについて議論を継続する。

2008年9月

麻生政権

NSG 第2回臨時総会 (ウィーン)

「インドとの民生用原子力協力に関する声明」採択 (参考資料⑤)

「NSGガイドライン」からインドを特別な条件無しに例外扱いするという決定

これにより、例えば

[NSGガイドラインPart2](#)

[原子力関連の汎用設備、資材、ソフトウェア及び関連技術の移転のためのガイドライン](#) (参考資料⑥)

供給国は、移転を許可するかどうかを検討するに当たって(中略)以下を含む関連の要素を考慮すべきである。

(a) 受領国が、核兵器不拡散条約(NPT)、(中略)の締約国(後略)

このガイドラインについて、インドはNPT未加盟だが例外扱い。
※他にもいろいろ例外扱い (詳細は参考資料⑤参照)

当時の外務省発表 (参考資料⑦)

「我が国としては、大局的観点から、**ギリギリの判断**として、コンセンサスに加わった。」

「我が国としては、インドが、この決定の趣旨を重く受け止め、国際的な核不拡散体制の維持・強化のために責任ある行動をとるよう引き続き強く求めていく。また、**インドに対し、非核兵器国としてのNPTへの早期加入、CTBTの早期署名・批准等を求める**との我が国の立場には変わりはない。」

2010年6月

日本・インド 第1回日インド原子力協定締結交渉（東京）

管政権

2010年10月

日本・インド 第2回日インド原子力協定締結交渉（デリー）

2010年11月

日本・インド 第3回日インド原子力協定締結交渉（東京）

2011年3月11日

東日本大震災 福島第一原発事故

2011年12月

日本・インド 野田首相インド訪問
「日インド戦略的グローバル・パートナーシップの強化に向けたビジョン」

野田政権

(参考資料⑩)

両首脳は、これまでの日インド原子力協定交渉の進展を歓迎し、原子力安全を含む相互の関連する関心事項に適切な考慮を払いつつ、妥結に向け一層努力するよう双方の交渉関係者に指示した。

2013年5月

日本・インド シン首相来日 首脳会談

安倍政権

(参考資料⑧)

民生用原子力協力に関し、協定の早期妥結に向け交渉を加速させることが確認された。

2013年9月

日本・インド 第4回日インド原子力協定締結交渉（東京）

2013年11月

日本・インド 第5回日インド原子力協定締結交渉（デリー）

2013年12月

日本・インド 第6回日インド原子力協定締結交渉（デリー）

2014年1月

日本・インド 安倍首相インド訪問
共同声明「日インド戦略的グローバル・パートナーシップの強化」

(参考資料⑨)

両首脳は、原子力安全が両国政府にとって重要事項であるということ認識しつつ、両国間の民生用原子力協力の重要性を再確認した。両首脳は、前回会談以降の日インド原子力協定交渉の実質的な進展を歓迎し、早期妥結に向け一層努力するよう、双方の関係当局に指示した。

「原子力協定」とは？
核物質・原子力関連資機材とこれらに関わる技術の輸出入の際、平和利用に限定して軍事転用を防ぐ為に設けられる法的枠組み (Wikiより引用)

2014年8月末～9月（予定）

日本・インド モディ首相来日 首脳会談

私の感想

そもそも、海外に原発を売ってる場合じゃないでしょ？

第2次安倍政権になってからの動きを見ると、かなりやる気満々な様子が見て取れます。自国では「原発の依存度は可能な限り低減」と言いながら、海外へはどんどん売り込む。

しかも売っているものは
・処理できないゴミをどんどん生み出し
・もしも事故が起こればその被害は計り知れない
そんな恐ろしい『湯沸かし器』。。
もう、やめましょうよ。

注) 2014年8月11日追記：2011年の野田首相インド訪問を追記しました

<参考資料>

- ① Nuclear Power Corporation of India Limited
<http://www.npcil.nic.in/index.aspx>
- ② 外務省HP 原子力供給国グループ(NSG)の概要
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/nsg/>
- ③ NSG HP "Participants"
<http://www.nuclearsuppliersgroup.org/en/participants1>
- ④ 外務省HP
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/india/visit/0612_gps_k.html
- ⑤ 原子力研究開発機構 核物質管理科学技術推進部 核不拡散ニュースNo.0101(2008.10.08)
http://www.jaea.go.jp/04/np/nnp_news/0101.html#a2
- ⑥ 外務省HP 輸出管理レジーム「NSGガイドライン・パート2」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/regime>
- ⑦ 外務省HP NSG第2回総会（概要及び我が国の対応）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/nsg/nsg_08rs_g.html
- ⑧ 外務省HP インド首相訪日
http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page3_000194.html#pm
- ⑨ 外務省HP 日・インド首脳会談
http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page3_000632.html
- ⑩ 外務省HP 野田総理夫妻インド訪問
http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_noda/india_1112/index.html